

令和5年度 第57回 中学生の「税についての作文」

まちだ納税貯蓄組合連合会長賞

『税から学び得たもの』

町田市立木曽中学校 3学年 藤原 那由多

中学生の私にとって「税」とは何か、と問われると、返答に戸惑ってしまう。学校で教わった知識で何となくこういうものだと分かっているが、詳しく説明せよ、と言われてしまうと降参だ。両親、祖父母とニュースや新聞で税についての話題があったときに、大人たちの会話に少し加わってみる程度なのだ。今回の課題で初めて税について調べるきっかけができた。私なりに掘り下げてみようと思う。

どうしても、税金というのは自分たちのお金を支払うという形なので、マイナすな感覚になってしまふものだ。働いている人たちにとって、日々頑張って稼いだ大切なお金のうちの何パーセントかを税金で納めなければならぬ。私たち学生も、普段お小遣いをもつて買い物に行くと、欲しいものの値段にプラス消費税分を加算して支払っている。そんなときに、どうしても残念な気持ちになってしまうのだ。しかし、ここでしっかりと税について学習すると、それまでのその感覚が別のものに変化した。それは、税がいかに私たちにとって重要で大切であるか。国民一人一人の生活を守り、幸せな生活を送るために創る「素」なのだと分かった。国民が健全な日々を送るためには、あらゆる設備や運営するためのシステムが必要で、それらには当然、お金がかかる。中学生の私は、今まで少しは理解

しているつもりだったが、今回、税についての資料を読むことで、税に対する考え方が変わった。学習して知識を持つことで、今までの自分の生活が税のおかげで守られていたことへの感謝と、今後、一人の国民としての義務をしっかりと果たして生きていきたいという思いが湧いてきた。

少子高齢化により、私たち中高生は将来、大きな負担を課せられる可能性がある。その時代の政府がどのような対策をしているかはまだ分からないが、それまでに我々若い世代ができることは、税のことだけではなく、日本国の課題や取り組みを知ることだと考える。そうすれば、政府が国のためにどのようなことを考え、どのようなことを行っているのかが分かり、自分たちが積極的にこの問題を解決していけるのではないかと思う。

高齢者が増えていく社会の中で、これからはそれを支え、活気づけていく若い人たちへの支援としても、税金を活用してほしい。世の中をよくするため、学びを得るために、税金があてがわれていくことを願う。良い知恵がたくさん集まればきっと、多くの問題も解決できると思うからだ。そして、人が人生を一生懸命に生き、年老いたときにしっかりとした保障があり、老後の暮らし、人生が明るく幸せになるような、豊かな国になることを実現させたい。私自身も成人して社会人となったとき、今回の税についての学びを糧に、この国の人たちの生活を守り、支えられるよう、努めたいと強く思った。